

# 田中康夫

緊急インタビュー



## 僕がおおさか維新から出る理由

7月の参院選で、田中康夫氏が「おおさか維新の会」から東京選挙区に立候補することを表明。この意外とも思える組み合わせが実現した理由と、その政策について聞いてみた。

— おおさか維新の会の公認を得るの立候補には驚きました。  
田中 一般的には安倍政権の補完勢力だと思われているから、リベラル保守のヤツシーとは水と油だと早とちりしたのかな。

— 早とちり？ たつて……。

田中 国政政おおさか維新の会（お維）は「改憲容認派」と言いたいんですよ。この点は「憲法改正で安倍首相とおおさか維新これだけの壁」という鋭い原稿を塩田潮さん（ノンフィクション作家）が「サンデー毎日」に書いていたから後で触れるけど、お維が掲げる統治機構改革は、僕が信州・長野県で行ってきたのと同じベクトル。地域主権の確立と、中央集権と既得権益の打破という目指す山の頂は一緒だ。

ところが今や47都道府県知事の75%近くは霞が関に代表される官僚出身者です。則を超えない彼らは、「中央」から「地方」へのピラミッド型利権分配システムを維持するうえで都合がいい。その結果、日本国家の借金は1000兆円を超えてしまい、持続可能な財政再建とは真逆の方向だと誰もが心配している。

— だけど、一向に改まらない。冬季五輪で巨額の借金を抱えた長野県も、僕が知事に就任した09年秋、一日の利息の支払いだけでも1億4800万円と財政再建団体転落寸前だった。県民の理解と職員との協力を得て全国で唯一、在任6年間、毎年連続で借金11起債残高を



6月8日、東京・六本木の国際文化会館で会見を行い、参院選出馬への決意を語る田中康夫氏（左から2人目）

比で日本の3倍の予算を投じるフランスの子育て支援の7割は、保育ママが担っている。既得権益の団体補助でなく、意欲のある一人ひとりの国民を信用して、そこに税金を投じるべき。

— 基本所得保証IIベーシック・インカム。具体的検討も始めたいし、犬や猫の殺処分ゼロに向けて、マイクロチップの埋め込みも義務づけたいね。

— 田中さんといえば、阪神大震災の救援活動以来、災害対策を重視するイメージがあります。

田中 今回の震災でも痛感したけど、「平和的予備役」を始めたい。長年水道の配管工事をやってきた「マイスター」は、引退しても元気な高齢者ですよ。こうした方々に登録していただいて、災害で水が

出なくなればボランティアで手伝いに行けるように、交通費は国が負担すると。高い技術を持った電気屋さんや大工さんなども日本にはたくさんいます。

— 今回の選挙の広報・宣伝方法にはどんな工夫がありますか。

田中 ツイキャスで遊説をライブ配信し、文字起こしもアップします。ツイッター、フェイスブックでも僕の行動をリアルタイムでお伝えしますし、すでにインスタグラムでは妻の恵が作る朝食も、皆さんに公開しています。

— 何事もガラス張りな僕の真骨頂。「微力だけど、無力じゃない。」と一人ひとりが実感できるワクワクする選挙戦にしますから、ぜひ新しいサイト（http://tanakayasuo.me）を覗いてみてください。

参議院議員の片山虎之助共同代表、共に衆議院議員の馬場伸幸幹事長と下地幹郎政調会長の集団指導体制に移行したお維は、個人商店の書屋が、やってみなはれの精神で日本から世界のサントリーへと瞬化したように、維新第2ステージに向けた戦いが今回の参院選なんだと思つよ。

— でも、お維は改憲勢力ですよ。  
田中 この点は少し説明が必要だ。実は5月18日の党首討論で民進党、日本共産党に続いて首相と向き合った片山お維共同代表は、「緊急事態条項の制定に反対。憲法9条改正はやるべきでない。今の憲法の良いところは残さないといけない」とわずか4分の持ち時間の中でハッキリと述べている。

今年に入って、安倍政権下での憲法改正に反対する国民が、「記者クラブ」加盟の全国紙の世論調査で、いずれも5割を大きく超えている。04年には改憲賛成が65%にも達していた読売新聞でさえ改憲反対が50%と逆転した。どうしてだと思つ？

— 「安保法制」の影響ですか？  
田中 「国民の権利と国家の義務」を定めるのが憲法でしょ。なのに「国民の義務と国家の権利」へと「壊憲」するのが自由民主党の憲法改正草案じゃないかと。過半数を超える国民の、そうした不安・不信の表れだと思つ。

— おおさか維新の会は、自民党以外の現存する国政政で初めて憲法改正案を示したので、改憲容認

派」と呼ばれているけど、大方の先入観と違つて掲げているのは次の3項目のみ。幼児期から大学までの教育完全無償化「統治機構改革」「憲法裁判所の設置」。どれも「国民の権利と国家の義務」を定める、北欧諸国の憲法かと思える内容でしょ。

— 現行憲法第26条の「教育を受ける権利」が、政権交代するたびに「権力」の判断で損なわれないうちに、国民の義務を定める法律でなく、国家の義務を定める憲法で明確に規定しよう。

— 「国民の義務」を強要しようとしている「権力」に、「護憲」という念仏を唱え続ける防戦一方で勝てるわけがない。憲法9条を護り育み、専守防衛に徹するうえでも、斬新な発想に基づいて「平和の刃」を具体的に突き付けてこそ、「国家の権利」を羅列した生煮え草案を葬り去れるんだ。

— 技術ある元気な高齢者を「平和的予備役」に  
— 依然としてマスコミは「安倍政権の補完勢力」だと擦り込もうとしています。

田中 民進党こそ、自民党の安泰化に貢献する補完勢力だよ。政権交代の立役者だった鳩山由紀夫、小沢一郎の両氏を肅清した一方で、政権転落のA級戦犯の首相経験者2人を厚遇し、安倍さん以上に安倍さんの議員を党内に幾人も抱えているんだから（苦笑）。

— 今こそ都知事選立候補ではと



目指すものが一緒であれば  
それぞれ手法は違っていてもいい

田中康夫●1956年生まれ、作家。一橋大学法学部在学中に「なんとなく、クリスタル」で「文藝賞」を受賞。'00-'06年に長野県知事、'07-'12年に参議院・衆議院議員を務める。公式サイトhttp://tanakayasuo.me/